

第6回JICA-JISNASフォーラムを開催

第6回JICA-JISNASフォーラム「農林水産分野における戦略的な途上国人材の育成：JICA-大学の協働による研修・留学プログラム」は、平成29年12月15日(金)にアットビジネスセンター東京駅にて開催され、大学関係者、JICA職員のみならず、官公庁、民間企業等82名の皆様にご参加いただきました。

話題提供では、JICA国内事業部の瀧澤征彦大学連携課長より、JICAによる研修・留学プログラムの概要について、また同農村開発部の宍戸健一部長より、農林水産分野における開発の動向と戦略的途上国人材育成の方向性について、さらに九州大学の緒方一夫副学長より、国別研修を事例として留学生事業の促進に向けた試行状況についてお話を頂きました。その後の意見交換会では、参加者それぞれの立場から農林水産分野の動向と戦略的人材育成の方向性について活発な意見交換が行われました。(伊藤香純)

オランダ・ワゲニンゲン大学との合同セミナーをミャンマーにて開催

2月3日・4日に、オランダ・ワゲニンゲン大学研究センター(WUR)、九州大学、国際農林水産業研究センター(JIRCAS)とともにミャンマーのイエジン農業大学(YAU)を訪れ、JISNAS-WUR-YAU合同セミナー&ワークショップ2018-IPMセミナーと農業研究の向上と応用に関するワークショップを開催しました。WUR、本学アジアサテライトキャンパス学院、JIRCAS熱帯・島嶼研究拠点からの基調講演の後、総合的病害虫管理を基盤とした適正栽培技術による農産物の生産安定化と品質の向上に関して、意見交換を行いました。(江原 宏)

着任挨拶

犬飼 義明 生物遺伝情報研究室 教授

農国センターの特色は、「将来国際協力現場で働くことを希望する院生や博士号取得を目指す院生の多さ」にあると感じています。私は准教授として本センターに5年間所属し、今まさに世界を舞台に活躍している方々と知り合うことができました。彼らからは「問題の気付き・整理」、「仮説設定と検証法の特定」、「検証の実施」、「結果の解釈とそれに基づく提言」という一連のプロセスをしっかりとやり切ることの重要性」や、「この訓練の絶好の機会が修論・博論の作成であり、学位取得に向けて奮闘した日々が現場の様々な状況への対応力の礎となること」を教えてくださいました。そのため、農国センター教授としての数多くある大切な役割の中でも、この修士号・博士号取得に向けた研究指導を軸に据え「国際協力に携わる農学人材の育成」に邁進する所存です。



略歴 1971年愛知県生まれ。1996年に愛知教育大学教育学部を卒業。2001年に名古屋大学大学院生命農学研究科農学専攻博士課程を修了後、佐賀大学海浜台地生物生産研究センター非常勤研究員、日本学術振興会特別研究員(COE)を経て、2004年に名古屋大学大学院生命農学研究科助手に採用される。2007年より同助教、2013年より本センター准教授を経て、2018年5月より現職に就任。

桂 圭佑 東京農工大学大学院農学研究院 准教授 客員准教授 (任期:2018年6月1日~2019年3月31日)

2018年6月1日付で客員准教授を拝命しました。これまで、イネを主とした作物を対象に、作物栽培学的アプローチから生産性の向上を目指して研究を行ってきました。生産現場で得た知見を大切に研究することを意識しながら、近年はアフリカ諸国を対象にした稲作振興のプロジェクトに多く関わらせていただいております。本センターとは主に2012年から2018年まで行われてきたケニアでのSATREPSプロジェクトを通じて親交を深めてきました。本センターは専門領域の異なる先生方も多く在籍しており、また、国際協力を行う土壌も揃っているため、日々刺激を受けております。まだまだ浅学非才の身ではありますが、スタッフの皆さんと協力しながら、研究・教育面での国際協力にもお役にたてるよう尽力したいと思います。どうかよろしくお願いたします。



略歴 1979年生まれ。2001年京都大学理学部理学科卒業。2003年京都大学大学院農学研究科修士課程修了。2005年より京都大学大学院農学研究科附属農場助手、2007年より同助教、2016年より東京農工大学大学院農学研究院准教授、現在に至る。